地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	作っている。理念の1つである家族の訪問を歓迎し社会参加をしますがそれである。又、パンフレットや重要事項説明書の中にも、うたっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝ミーティングの時に、理念をスタッフ一同声を出して言い、新たな気持ちで1日を送る。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族は、もちろん運営推進委員会などに地域の人にも参加してもらい理解してもらっている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際に顔見知りになった方など何人か立ち寄ってもらい、お茶を飲みながら話をしたりする事もある。ボランティアの自宅に菓子を持って遊びに行ったり集会所でダンスの練習を見学したりと地域の人々の付き合いを大切にしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っている。ゴミ出し当番など順番がまわって来て利用者と一緒に片付けたりするし近所の方が困った時など(病気の子供をかかえて車に乗せたり、庭木の剪定など)手助けしている。ボランティア3組ほど毎月来苑し出し物など披露があり利用者も楽しみにしている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話相談に応じたり、地域のボランティア、民生委員と連絡をとり合って支援している。管理者が自治会の“おたすけ隊”に入り独居老人の支援をしている		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解している。前回の評価、他の施設の評価などを参考にし、当苑の改善点を謙虚に受け止め実行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は11回ほど開いたが、その際外部評価の報告をし、改善点なども示したり、民生委員との連携で情報をキャッチして入居となった人もいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定申し込み時などに役所に行き入所についての話や、包括のケアマネに通所施設を紹介したり、来苑した相談者の情報などを市に報告している。又、役所開催の説明会、懇談会などに参加して意見交換している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修を受け他の職員に報告をしている。家族にはパンフレットなどを渡し説明もしているが今は必要な人はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者が高齢者虐待防止のマニュアルを作り、当苑にとって現実に起こりうる可能性などの事例をあげ勉強会を開いている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	十分に説明し理解してもらっている。入所時には他の施設の見学を勧めて納得して入ってもらい退所時は不安のない様に他の施設を紹介している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「私の気持ち」は半年1度見直し、なるべくそれを実現出来るよう努力している。利用者は帰宅願望などをよく職員に訴えるが自宅に連れて帰って家を見たり家族と話したりすると落ち着く。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度家族へ利用者の暮らしぶり、健康状態をたよりで報告し、年4回苑だよりを家族へ郵送している。その時、職員の異動は報告をする。金銭管理は毎月1回帳簿の写しや領収書を郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつも管理者、職員が家族とコンタクトを取り利用者の状況を伝えている。又、年2回の家族会もし、家族の思いなどを発言してもらい、職員も出来るだけ参加して気持ちを受け止めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の全体会議の中から職員の意見を聞いているし、それを運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な病変や外出の時は職員は自分の勤務外であっても快く協力してくれている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員変わって混乱したり、戸惑ったりは今まではなかったし、今年で6年になるが3年以上の勤務者が10人中6人である。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても，その能力を発揮仕手生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証	性別、年齢を理由に排除はしない。向上心のある職員は看護学校進学を勧めたり、色々な国家資格を取れるように応援している。勤務終了後、夜、 有志の職員が集まり趣味や国家試験に向け勉強をする場を提供し応援している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取組んでいる	人権の研修を職員が受け月1度の定例会の勉強のテーマとして教育、啓発に取り組んでいる。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外、各種の研修を職員交替で受けている。介護、看護の手技、薬の知識などは管理者から適宜指導がある。職員は全員参加としホーム内での会議録、資料もある。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や特別養護老人ホームなどで研修をさせてもらったりはした。他のグループホームのケアマネージャーと交流し、お互いに相談したりしてサービスに生かしている。又、満室の場合は他のグループホームや小規模多機能施設を紹介している。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は別室で休憩を取る。休みを利用して食事会、カラオケなどストレスの軽減に努めている。又1泊温泉旅行などにも交替で行く。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回10項目の他者採点と気づきを管理者に提出し、自己反省を促し、各自意欲的に働いている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式等を利用して本人や家族より聞き取りを行い、本人からの訴えの内容を知っておく様にしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	苑長、副苑長、主任をはじめ、家族と多くの時間を取り家族の悩みに寄り添って理解し、苑を信頼して頂ける様努力している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで課題を見極めケアプランを立てて支援の順番を見極めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所を通じて苑の雰囲気に徐々に馴染める様にしている。家族が一緒に泊まったりして納得してもらってサービスの利用や契約をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を先生としてスタッフが着付け、園芸、裁縫などを教えてもらって、信頼関係を築いている。又、信仰深い利用者には、“人生訓”などを勉強させてもらっている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランに本人、家族の意向を積極的に取り入れてる。水分摂取の手助けや病院受診、散歩外出支援などに協力してもらっている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様との会話の中で家族の話を行い、自宅の住所、子供、嫁の名前など忘れない様に支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スタッフ同伴で自宅へ仏様参りや自宅の様子を見に行く事、利用者の知人が面会に来やすい様に家族などに協力してもらっている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	比較的しっかりした利用者を中心に洗濯物たたみ、掃除、茶碗洗い、他の利用者のズボンの裾あげをしてもらったりなどと利用者同志で関わってくれて、認知度のレベルの低い人にも理解をしてくれてるので、結構自然に付き合っている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	誠意をもって他の施設の紹介をし面会や見舞い、葬儀参列、家族へのグリーフケア（生前の写真集を作って渡す）もしている。退所した家族の来苑が有り、スタッフに励ましの言葉や季節の花木や菓子の差し入れなどがある。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味の短歌の投稿、美容院、自宅の様子を見に行く。行きたい所の外出などは本人の希望で支援している。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使用していたタンスなどを居室へ持ち込み生活している。今までの馴染みの関係を断ち切らない様、通いの医院、美容院は継続して支援している。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護日誌に日々の生活状態を記録し、気づきを書き込み心身状態をみんなで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や要望を取り入れて個別にケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。職員にモニタリングをしてもらい介護者の気づきを大切にしてプランの参考としている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて見直している。心身状態の変化、入院、骨折、認知力の変化に応じて家族と共に新たなプランを見直している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を一部導入したり苑固有の物を作って個別の記録は詳しく記入し、スタッフも共有し介護の実践や見直しに活かしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族には利用者と一緒の部屋に泊まってもらって一緒の食事を頂いて普段の生活を実感してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している	花壇の手入れ、工作、一部の利用者の希望により硬筆などの指導にボランティアが定期的に来て支援してくれている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネージャーと相談して近くの特別養護老人ホームやグループホームに利用者と一緒に行事に参加させてもらったりしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネからの相談があり通所介護の紹介などをしたりしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を大切にし支援している。その際の情報を共有し病変などに往診等で迅速に対応してもらっている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医院長にかかりつけ医の1人になってもらい、家族、スタッフも含め相談したり支援してもらったりしている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	正看1名准看2名薬剤師1名と医療系スタッフには恵まれている。かかりつけ医の医師も快く往診してもらったりして医療連携は充実している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者、スタッフ共々見舞いに行き、出来る限りのリハビリなどをして早期退院に向け努力している。病院の看護師、医師を交えて相談もする。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に家族と何度も相談して家族、本人の意向を大切にし方針を決めている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期はかかりつけ医や家族の意見を聞き、家族の協力もスタッフの支援力の1つとして納得してもらい出来る限りの支援するつもりである。又、そのマニュアルもある。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅へ自立で移り住んだ利用者に対して何度か訪問し様子を見にいったりした。又、他の施設に移った場合は様子を見に職員が交替で行く。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いは普段丁寧語を心がけている。人生の先輩であり知識の豊富さはスタッフよりは、はるかに多くのものを持っているので常に教えをこうつもりで接している。個人情報の保護に関する規程の書類の整備はしている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	～しますか？と声かけを行い、拒否がある場合は無理じいせず、時間をおいて声かけをするなど利用者に合わせた支援を行っている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操の時間に1人1人に今日は何がしたいかを聞き、外に出る事が好きな利用者や何もしたくない利用者等の希望に沿って実現に向けて努力している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	地元の行きつけの美容院へ2ヶ月に1回行かれる利用者もおられ支援をしている。その他の方は近くの美容院へ行かれたり、スタッフがカットをしたりして支援している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝のスピーチの際に食べたい物を聞いたり家族より好きな物を聞いてﾒﾆｭｰに取り入れている。食後は茶碗洗いや台ふきを手伝って頂いている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	牛乳が好きな利用者には、おやつの時間などに出して飲んで頂いている。モーニングｺｰﾋｰは毎朝出している。又、洋菓子店でケーキとｺｰﾋｰを食べに行ったり寿司好きな利用者には昼定食の寿司を食べに行ったりしている。以前利用者の中に酒やタバコをたしなむ人がいたが禁止する事無く自由に楽しんでいた。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者ごとに排尿パターンを把握しﾄｲﾚ誘導を行っている。夜間はオムツを使用するが日中は紙パンツにするなどする。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やﾀｲﾐﾝｸﾞに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴では入浴の順番を決め、1番風呂に平等に入れるように工夫している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者がいれば、和室でテレビを見たり、話したりして落ち着くまで対応する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短歌をたしなむ利用者が同人誌に出展したり、有志で硬筆の練習したり、今までやっていたことを継続できるよう支援したりしている。他の利用者の縫い物をしたりする利用者もいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行ったり、診察での支払いは本人が窓口で出来る様支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日王子神社や畑に散歩に行ったり、商店街で帽子屋を営んでいた利用者を商店街にお連れしたりしている。なるべく本人の希望にそった外出の支援をしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回外出可能な利用者を連れスタッフの慰安旅行も兼ねて一泊行ったり利用者希望のＮＨＫ大河ドラマ篤姫ゆかりの地鹿児島、利用者の古里（宇佐町、久住町）に行ったりした。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より手紙など来た際は、本人様に渡し、お礼として電話をかけ本人様かわりお話される。又、携帯電話を持っている利用者には相手の番号の設定や充電の支援をしたり又、手紙を書く利用者には投函の支援をしたりしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	２４時間訪問出来ると伝えている。友人等が来られた際も、自室でお話して頂く為、居心地よく過ごして頂けると思う。又、遠方からの家族は泊まって頂いたりしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例はなく、スタッフの身体拘束に関する正しい認識については苑長や主任からシュミレーションを実施しての説明などによって正しく理解するように取り組んでいる。マニュアルもある。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、通常掛けていない。職員一同は、鍵を掛けることの弊害を理解している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋に入る時はノックや声かけなど行う。ほとんどの方は居間にて過ごしているか、自室で昼寝をしている入所者には、時折、声かけなどし様子を見る。夜は22,　0, 2, 4, 6時と巡視を行い安全を確認している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症のレベルによって、個別に判断して行っている。なるべく馴染みの物は手元において利用してもらっている。くし、化粧品など		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフ全員、消防署で行われた救急訓練に参加し、転倒、誤嚥などは看護師の苑長の指導をいつも受けている。警察と消防に年1回行って協力をお願いしている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師である苑長から講習や指導を受けている。例えば誤嚥の場合、高血圧、低血圧の場合、止血方法、点滴時の観察など		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中の火災時の避難訓練は、年2回ほど行っているが、夜間の場合は口頭での理解だけである。地域の方々が避難場所として自宅を開放して頂けるとの申し出もある。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族には入所時に必ず本人の意志や自由を尊重する為転倒や突然死などのリスクを説明し、納得して入所してもらっている。		
78				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	24時間体制の看護師や苑長、副苑長に報告し速やかに主治医に相談したり対処する。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通りはもちろんの事だが、副作用の発現と可能性は十分把握して変化があるとすぐ中止し、医師に報告し指示をあおいでいる。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腹部マッサージを行ったり、水分量の確認をしたり、ひどい場合は、服薬の確認や医師の診察を行うなどの対応をする。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアのチェックをし、夜間は義歯を預かる。歯科については必要があれば往診をしてもらう。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500キロカロリーを目標とし、水分は計量カップで計るなど徹底している。1日の水分量は1ﾘｯﾄﾙ以上を目標にレベルの低い人には飲水の介助をする。食事や水分の摂取量は記録を行っている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ﾉﾛｳｲﾙｽ等）	感染症対策マニュアルがあり、インフルエンザの予防接種を実施している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理はしっかりしている。（まな板、ふきん等の定期的な消毒）旬の無農薬野菜を作り使用している。		
82 （1）居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の表札を作ったり花壇やプランタンに花を植え玄関にはスタッフ手書きの心のこもったプレートを作るなどして親しみやすく出入り出来るようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建築に詳しい苑長が日光が程よく入る様に苑を設計している。急な模様替えは避け、徐々に季節感を考え夏などには苑で取れた野菜なども飾る。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ居間で過ごしているが、和室や少し離れた所に利用者が利用しやすい様にソファーや椅子などを置いている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の持ち物を、家族や自分が買い揃えて持ち込んでいる。馴染みのタンス、読みなれた本、家族写真、子供の絵など		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏28℃冬25℃で空調の温度を設定している。日に2回苑内の換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等有り。バリアフリー、照明、水道が自動センサー付き、切り忘れが無い。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人で出来る方は見守り、出来ない方は声かけや支援をします。トイレ、風呂など分かりやすく表示し混乱を防ぐ。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸や水撒き、畑の草取りや手入れ、野菜の収穫など楽しみながらしている。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点･アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

“生涯自分の足で歩こう”という苑長の方針のもとに日々の筋トレ、特に下肢筋力の強化に力を入れている。毎日の散歩は、もとより歩行機を利用して起立運動、足あげ運動を個々の能力に合わせて行う。特に退院した利用者には、集中的にリハビリを行い、体力回復をはかるなど苑長の指導のもとスタッフ総力をあげて効果をあげている。脳トレや日記を書いたり、計算をしたり、楽しみながら実行している。恒例の秋の職員一泊旅行は、体力の許す限り、参加出来る方もお連れして、みんなで楽しんでいる。